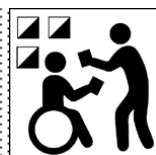


トレイル0 NOW!



IOF
トレイル0委員会
こやま たらう

田代雅之さん IOF のアスリート・コミッションのメンバーに

IOF ではかねてからフット0、スキー0、MTB—およびトレイル0の基幹OL4種目におけるアスリート・コミッション(競技者委員会)の設立を進めていたが、このたび、トレイル0の6名のメンバーの一人に田代雅之さんが選ばれた。

アスリート・コミッションは、関係委員会などと連携を密にして、イベント・プログラムについてのアドバイス、「公平さFairness」に関する事項についての意見とアドバイス、Trail0の促進など、助言行為が主な仕事で、男女各3人ずつの6名のメンバーで構成されている。初代メンバーは以下のとおり(最初の3人が女性)

A. Straube (GER), J. C. Perkovic (CRO), A. Raberg (SWE), B. Hulka (CZE), L. Kontkanen (FIN), 田代雅之 (JPN)



IOFトレイル0 競技規則の一部改訂

2011年2月1日発効の主な改正点は次のとおり。

<http://orienteering.org/trail-orienteering/rules/>

1、パラリンピック競技者資格認定がきびしくなった。

従来は、「フット0競技に参加した場合に、著しく不利益をこうむるような永続的な身体的障害を持つ競技者」(内的障害を含む)が対象となっていたが、今後は「トレイル0競技において著しく制約を受けるような永続的な身体的

障害を持つ競技者だけがPクラス競技者として認定される。また、IOFへ認可申請を行う際には、所属する各国連盟(日本の場合はJOA)のPクラス有資格を証明する署名を必要とすることとなった。

この改訂は、従来から、健常者と変わらない行動が出来るPクラス競技者が多見され不公平感があったこと。また、近い将来にオリンピックのパラリンピック競技への参加が予想されるが、これにあたってIPC(国際パラリンピック委員会)から、よりシビアな適合認定を求められることを見越した措置である。

この改訂により、従来からPクラスで出場していた競技者がその資格を得られないためオープン・クラスへ移ることが少なからず予想され、WTOCなどの国際競技会における競技者の顔ぶれが従来とは大きく変わると思われる。さて、今年8月のフランスでのWTOCはどうなるか・・・

2、国対抗の「チーム競技」メンバーは3名で、事前登録制となった。

従来は、世界トレイル0選手権大会の二日目の競技において各国のPクラスの成績の上位2名、オープン・クラスの成績上位2名、合計4名の総合成績で争われていたが、今後は各国のチーム編成は3名となり、Pクラス1名以上およびオープン・クラス1名以上を含む3名を競技前に登録しておくこととなり、チーム・メンバーは固定となる。

3、表彰対象が広がり、4位から6位にもディプロマが授けられる。

オープン・クラス、Pクラス、およびチーム競技においては従来は1～3位までの表彰であったが、4位～6位についても表彰され、賞状が授与される。

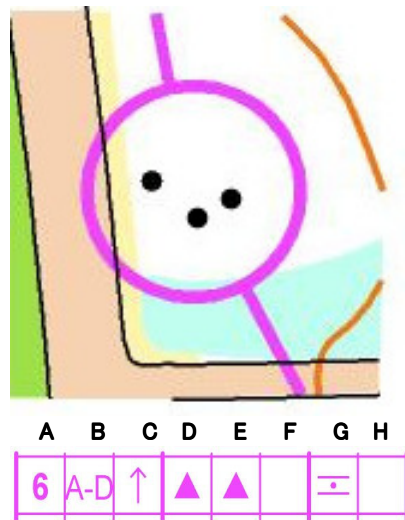
“Between”の定義

フット0では簡単な「Between 間の(あいだ)」のコントロールは、トレイル0の場合には非常に複雑なものとなり、セッティングの許容範囲に関して、しばしば論議の場となっている。ここに再定義する。

「Between 間の」の表現が使用できる特徴物は、コントロール・サーク

ルの内側にあるか、あるいは部分的に内側にある(=接している)場合のみである。

C枠での説明は、コントロール・サークル内のいくつかの特徴物のうち、どの2つの特徴物がペアとなるかを示す。



(こやま たらう)